

宍道湖の令和2年度水質測定結果及び水質浄化対策推進状況

1. 令和2年度水質測定結果について

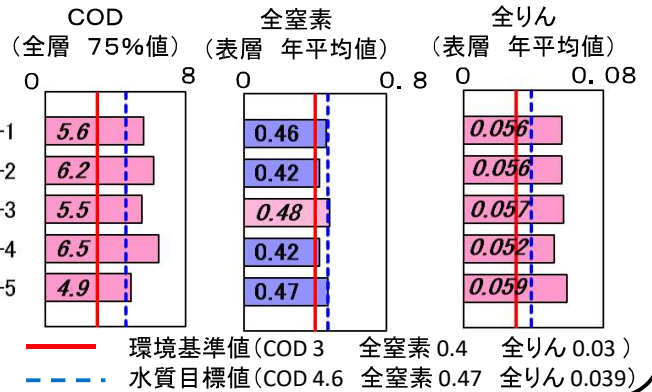
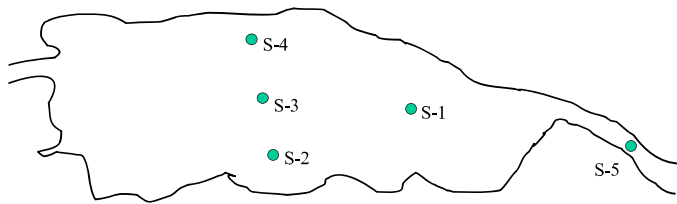
(1) 環境基準等の達成状況について

- 環境基準点5地点における水質測定結果は、COD(化学的酸素要求量)、全窒素及び全りんについて、いずれの項目も環境基準未達成(図1-1、図1-2)
- 第7期湖沼水質保全計画の目標水質について、いずれの項目も未達成(COD及び全りんについては、すべての地点で未達成)
- 平成22~24年度に3年連続して大発生したアオコの発生なし

図1-2. 宍道湖の環境基準点の測定結果

単位: mg/l

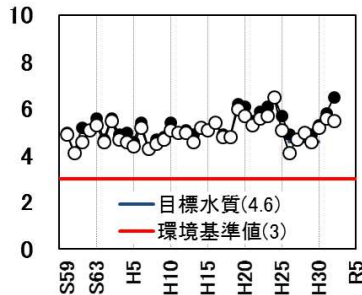
図1-1. 宍道湖の測定地点図



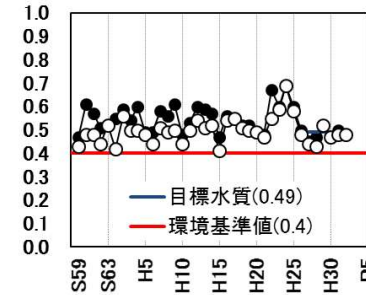
(2) 経年変化について

- CODは、最高地点が昨年度より上昇したものの、過去の変動の範囲内であった。
- 全窒素は、最高地点及び湖心が昨年度と横ばいであり、過去の変動の範囲内であった。
- 全りんは、最高地点及び湖心が昨年度より上昇したものの、過去の変動の範囲内であった。

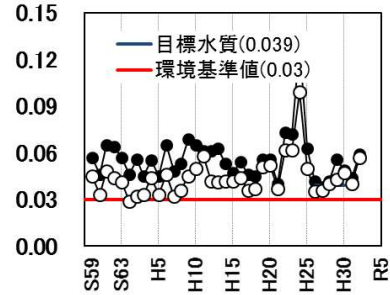
図1-3. 宍道湖の水質の経年変化 (mg/l) COD(全層 75%値)



(mg/l) 全窒素(表層 年平均値)



(mg/l) 全りん(表層 年平均値)



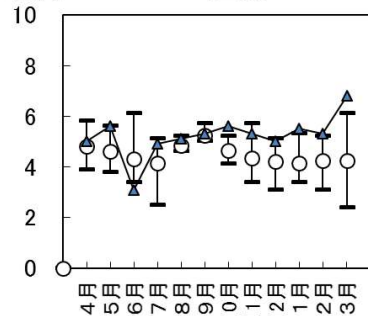
● 最高値
○ 湖心

備考:「最高値」とは、環境基準点のうち、各年度において最も高い地点の値。

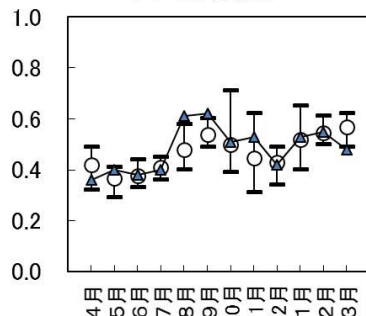
【参考1-1】経月変化(湖心 S-3)

図. 宍道湖湖心における令和2年度水質測定値の経月変化

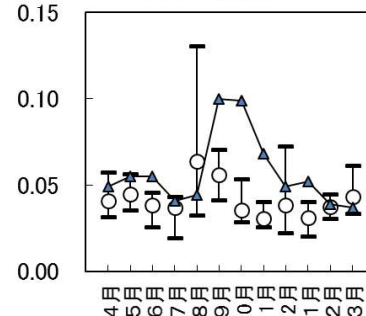
(mg/l) COD (全層)



(mg/l) 全窒素(表層)



(mg/l) 全りん(表層)



過去5年間の集計値
○ 最大値
○ 平均値
○ 最小値
▲ 令和2年度測定値

【参考1-2】令和2年度の気象状況

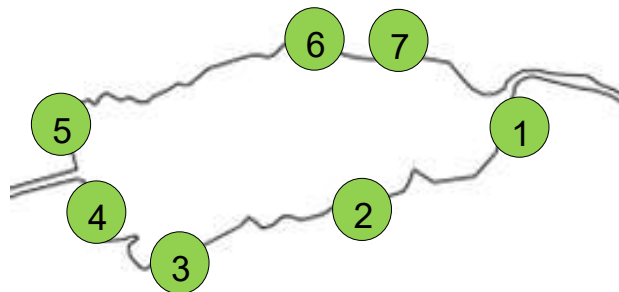
- 年平均気温(松江)は15.7°Cで、平年値(15.2°C)より高かった。
- 年間降水量(松江)は1949mmで、平年値(1791.9mm)より多かった。
- 年間日照時間(松江)は1854.9時間で、平年値(1705.2時間)より長かった。

2. 長期ビジョンの実現に向けた指標について

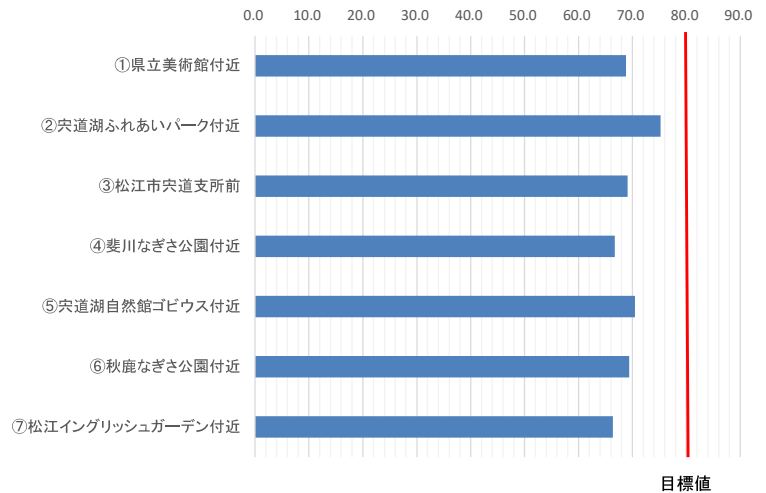
(1) 五感による湖沼環境調査結果について

- 住民に親しみやすく分かりやすい環境指標として「五感による湖沼環境調査」を7地点で実施（図2）
- 令和元年10月～令和2年9月期は地域住民がモニターとして41名、3団体が参加
- 令和元年10月～令和2年9月期は平均が69.5点、目標とする80点以上の地点はなかった
- 経年変化を見ると、得点は概ね横ばい

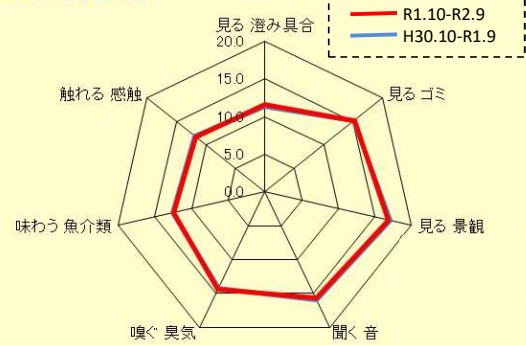
図2 調査地点



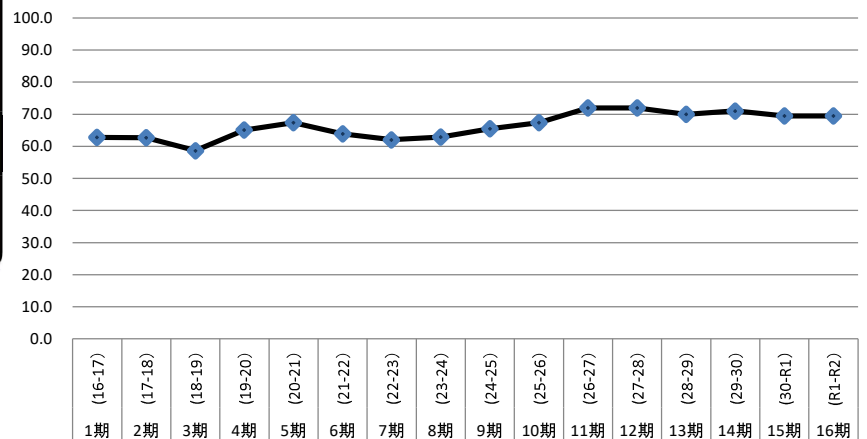
各地点の得点(期間平均値)



宍道湖総合



五感指数の経年変化(宍道湖総合)



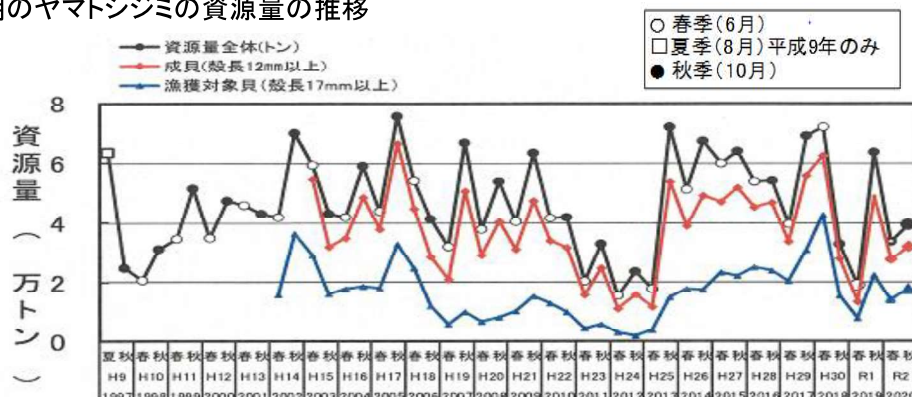
■五感による湖沼環境ランク表

合計点数	ランク	評価内容
80点以上	A	おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる。
50点～79点	B	やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感じられる。
49点以下	C	快適さに欠け、親しみにくい環境にあると感じられる。

(2) 生物生息環境による評価について

○宍道湖の象徴的存在であるシジミ(ヤマトシジミ)をはじめとする汽水域の生物が安定的・持続的に生息するような生物生息環境を目指す

【参考2】宍道湖のヤマトシジミの資源量の推移



島根県水産技術センターの調査結果より

図2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

3. 湖沼水質保全計画の進捗状況について

水質改善に取り組む為、平成元年から湖沼水質保全計画を定め、国、県、関係市町、流域住民、NPO、事業者等が連携して、各種施策を推進している。第7期湖沼水質保全計画(R1~R5年度)において、令和5年度までに達成すべき目標を定めている各種施策は、概ね計画どおりに進捗している。

図3-1. 生活排水処理施設の整備状況

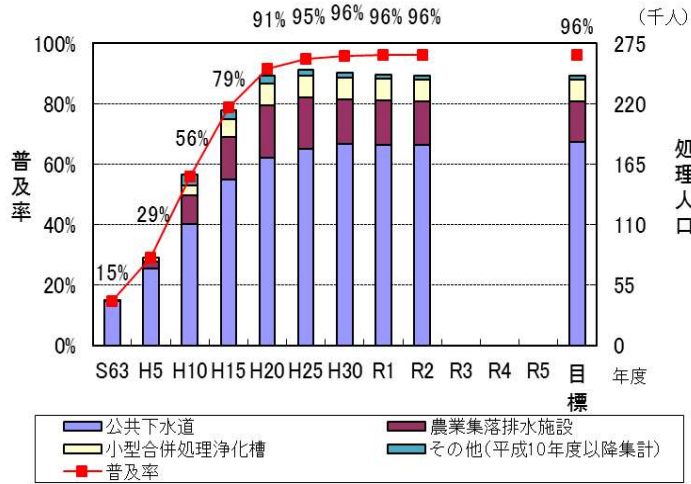
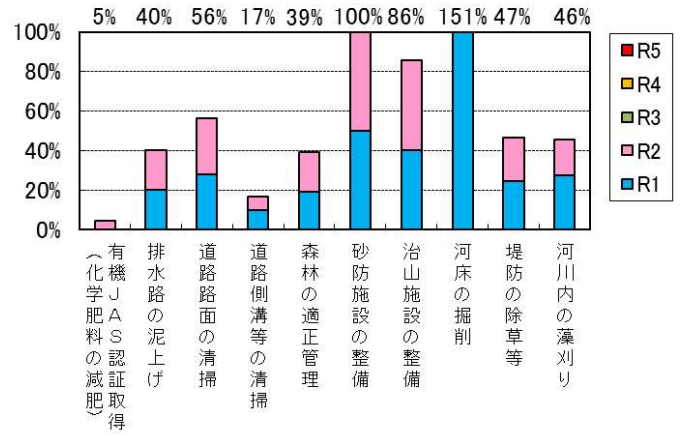


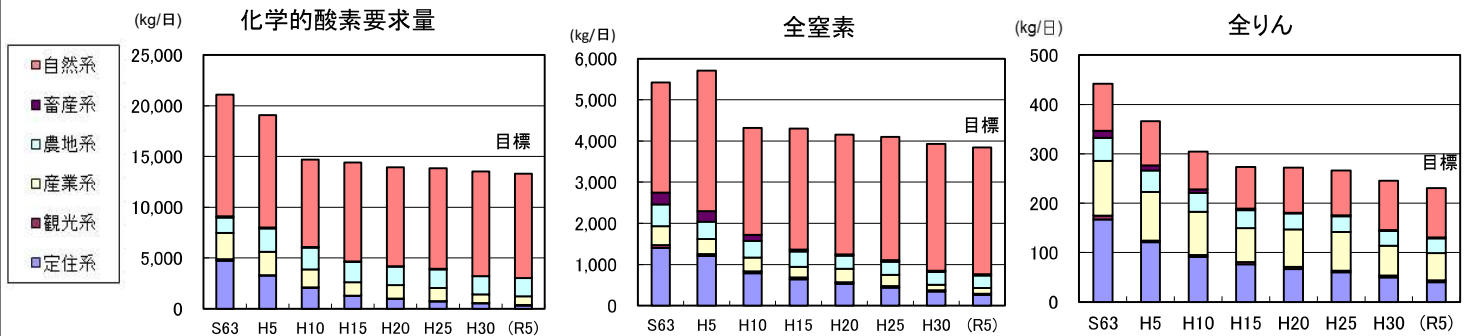
図3-2. 各種施策の進捗状況 (注1)



注1) 令和5年度までの累計目標事業量を100%とする。

参考

参考3-1. 宍道湖に流入する汚濁負荷量の推移



参考3-2. 宍道湖に流入する主な河川(斐伊川、山居川)の水質

